

平成23年を振り返り、そして、新年を迎えて

真田図書館サポーターの会会長 渡辺 猛

新年あけましておめでとうございます。

私たちの真田図書館がオープンし、昨年11月でまる1年となりました。そういった意味で、平成23年は真田図書館の本当のスタートの年であったといえます。私たちサポーターの会も、図書館同様、良いスタートを切れた1年ではなかったでしょうか。

日頃からの配架、本の修理、館内見回り等ありがとうございます。また、市から図書館の市民協働をテーマとしての事業委託を受け、「ルポワッソンコンサート」、「図書館まつり」、「環境美化活動」を実施できました。多くのサポーターの皆さんの力を結集しての図書館まつりでは、おはなし広場、本のリサイクル市、もちつき大会と図書館を訪れたお客様の笑顔が、私の心に強く残っています。「やってよかったなー」。この声がサポーターの皆さんの心にありました。

美化系の活動は、1年を通じてゼラニウムなどで図書館に季節の飾りつけをしました。

みんなの小さな力が集まり、大きなサポート、市民協働事業ができました。

平成24年も一人ひとりが少しの力を出し、図書館を支え、そして真田地域の元気を支えましょう！

1～3月のおはなし広場



1月21日(土)
ヒロ・タッキーの新春腹話術ショー
「腹話術と手品の楽しいおはなし会」

2月18日(土)
ミミールの会
「地元の民話をもとにした手作り紙芝居」

3月17日(土)
たまたま箱「パネルシアター」

おはなし広場は

毎月第3土曜日の午前10時から、真田図書館2階で開催

この人紹介コーナー

今回は真田図書館サポーターの会会員で、
真田町石舟自治会在住の腹話術師

ヒロ・タッキーさんです！

ヒロ・タッキーに会いに行こう！

真田図書館とサポーターの会では、ヒロ・タッキーの正月公演を計画。「笑う門には福来たる」。正月から大笑いしませんか？

日時：1月21日(土)
午前10時～11時30分

場所：真田図書館多目的ホール

演目：ヒロ・タッキーの新春腹話術ショー
「笑いと感動の世界へ」



本名、滝沢博文さん。近年、腹話術で名を馳せる存在に。昨年の公演回数は90回を数え、それも海外公演までも行う国際的腹話術の活動も展開。

1991年に腹話術の講習を受けたことをきっかけに、趣味から特技の世界へと芸を高めました。この頃から各地の福祉施設、保育園、敬老会、子供会での公演回数は年間約40回。腹話術師として本格的活動に入ったのはアメリカ。「ペント・ヘブン・コンペション(米国腹話術世界大会)」に参加し、世界各地から集まったプロアマの腹話術師らと交流、講習を深め英語でのステージをやり遂げた時から。この舞台を契機にアメリカで老人ホーム慰問、ハワイの日本人学校、シンガポールでの公演で芸を磨きあげてきました。

滝沢博文さんは「エンターテイメントとしての腹話術で、笑いと感動の世界へ」を活動のモットーにしています。

真田図書館で行われている「おはなし広場」では、「笑いのワ」に出演。

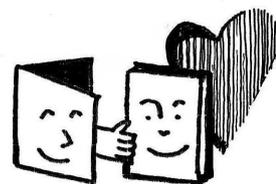
最近は声と手品を組み合わせた「Wマジックショー」が好評を博し、子供も大人も楽しめる舞台です。



手品もあるよ～！

みんな、来てね～

大盛況！図書館まつり



12月17日(土)に図書館とサポーターの会との市民協働事業「第1回図書館まつり」は、約230人の来場があり、盛大に開催することができました。

多目的ルームを会場とした本のリサイクル市は、開始の10時前から楽しみにされている皆さんが列をつくりました。結果は、151人の方の入室があり、リサイクル本として並べた479冊のうち407冊が図書館から新しいオーナーにもらわれ、新たな役割を果たすことになりました。リサイクル市は、業務部会の皆さんが担当ですすめられました。

児童図書コーナーでは、「おはなし広場」が開催され、大滝館長のあいさつの後、ちよちゃんのおへや、ミミールの会、おとぎの会、ヒロ・タッキーの4グループによる楽しい本の読み聞かせ、紙芝居や腹話術ショーなどが行われました。81人(大人32人、子ども49人)の皆さんが楽しみました。担当はおはなし広場のグループの皆さんです。

運営部会の担当で、餅つきを行いました。朝早くからお湯を沸かし、4臼(8升)つきました。去年を参考に、あんこときなこの餅を1皿として150皿用意しましたが、好評で最後は足らなくなり、大変申し訳ない思いで終了しました。最後に係の反省で、来年は余るくらいにつこうという話となりました。

本当に大成功、皆さんお疲れ様でした。



リサイクル市で本を手にする来場者

ほかにも、たくさんの活動をしてきました

7月17日には真田図書館とサポーターの会主催で、『「協同」から「協働」へ・・・地域をつくる女性の生き方』と題し、米田佐代子先生の講演会を開催しました。

ひと言

参加して本当によかったと思いました。先生の幼い頃からの実体験を核として分かりやすくお話をなされたので、心の深い所まで、母として、妻として、そして一人の女性として生き抜いてきた苦しみ、そしてそれを乗り越えて来た不思議なくらいの明るさを分けていただきました。「女のくせに」とか「女なんだから」という一方的な考えに、その笑顔と努力で立ち向かってきたのですね。心からありがとうございます。(林良さん)

「楽しい家庭菜園づくり講座」に参加して

真田図書館サポーターの会などが共催している人気の講座。講師は真田町傍陽入軽井沢出身で、農業アドバイザーの山宮君夫さん。参加者に感想をお聞きしました。



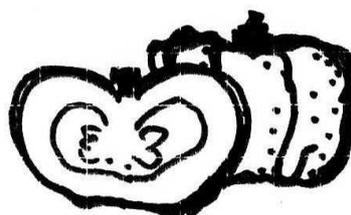
理解が深まりガッテンガッテン

花きハウス栽培で20年、自家用野菜は自己流でやってきました。

自営の花き栽培も順次減らす年齢になり、自家用野菜に手が回るようになり、各作物の疑問、性質、特徴、病虫害、栽培方法など詳しく知りたく菜園教室に参加しました。

作物の性質や特徴など専門の話もチラリ。作付けしていない作物の話の聞くと挑戦したくなり、また作付けしている作物では、疑問に胸を打つ理解。納得ガッテンガッテンでした。

ボカシ肥料で有機栽培を心がけており、よりおいしい野菜を作りたいと思います。(木島淳さん 横尾自治会)



食卓を彩った野菜

我が家の作りたい野菜の種類、資材の買い方、野菜の長期保存、貯蔵法などなど、内容が豊富で大変勉強になりました。

ラディッシュは時間差栽培で大きくなって、今も食卓を賑やかにしています。

健康で根気良く草取りもして、毎日野菜の顔を見るのが楽しみになりました。

(杉浦友子さん 表木自治会)

東京から帰って菜園づくり

40年程長野を離れていました。その間の都会生活は全て、買って食べる、の繰り返し。

両親の元に来て初めて畑仕事を始めたのですが、ピーマンは枯れ、トマトは割れてしまいました。

誘われて参加した菜園講座は、追肥、種まき、収穫時期など、具体的な話が分かりやすく実践的でした。

秋野菜の種まきは、今までよりかなり遅いので家族が心配していましたが、出来は上々です。

今後は堆肥から自家製にしようかと相談しているところです。

(飯島留美子さん 中組自治会)

編集後記

東北大震災、原発災害が重くのしかかり、TPP、沖縄の普天間基地問題、消費税値上げ問題が浮上し、人間社会として考えさせられる一年でした。この中で、サポーターの会は、真田図書館と協同して「市民のみなさん、どうぞ図書館へお出かけください」を合言葉に活動し、1年を締めくくりました。会員の皆さん、大変ご苦労さまでした。